

工業会活動

CAEP / 11 Meetingに参加して

1. はじめに

2019年2月4日から15日までの2週間、カナダのモントリオールにあるICAO本部にてCAEP（Committee on Aviation Environmental Protection：航空環境保全委員会）本会議が開催された。日本航空宇宙工業会（SJAC）からICCAIA（International Coordinating Council of Aerospace Industries Associations）の一員として参加した。

CAEPはICAO理事会の技術的な委員会で、1983年に、Committee on Aircraft NoiseおよびCommittee on Aircraft Engine Emissionsを統合して設立され、航空機の騒音、排出物および、広く航空が環境に与える影響に関する、新しい方針の策定、基準の採択に関し、ICAOの理事会を支援する委員会である。

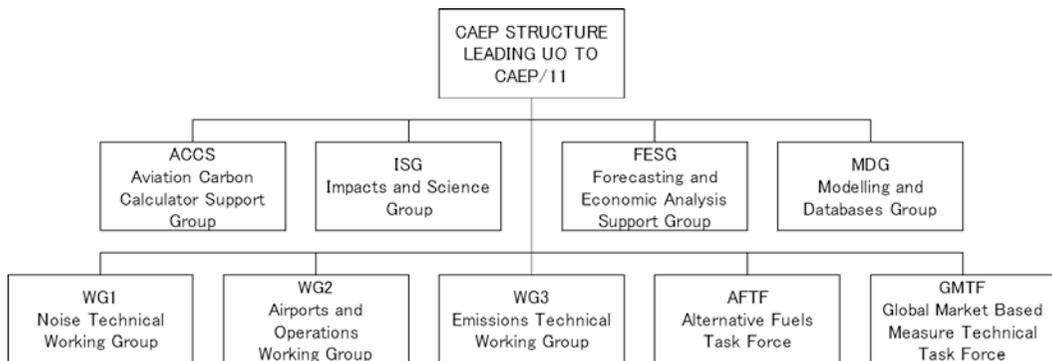
CAEPは、ICAO総会の開催サイクルに合わ

せ本会議が3年ごとに開催され、その間SG（Steering Group）Meetingが毎年開催される。今回の本会議は2016年2月に次ぐ第11回の本会議（CAEP / 11）であった。

CAEPの組織の概要

CAEPには日本を含む25か国の政府のメンバーおよび、6か国の政府とICCAIAを含む11団体がオブザーバーとして参加している。

CAEP / 11 Meetingには100名以上が参加し、ICCAIAメンバーとしてSJACからは4名（会員企業：2、事務局：2名）が参加した。なお、日本からは国土交通省 航空局 安全部所属のCAEP委員、および同局総務課 地球環境保全調査官の2名をはじめ、JAL、ANA等からも参加していた。



CAEP / 11までのICAO CAEPの組織



写真1 会場となったICAO本部



写真2 議事の様子

今回の議長はシンガポールの委員が選出され、会議は事前に提出されていた90件のWorking Paper (WP) に沿って進められた。尚、CAEPの議事内容についてはNDAがあるため次項ではトピックの概要を紹介する。

2. 議事内容

(1) Emission関連

Engine Emissionsに係る規制として、ICAO Annex 16, Volume IIがあり、Chapter 4としてPM (Particulate Matter Emissions) を追加した改訂版が2018年1月から有効となっている。また、CO₂排出に係る規制として2018年7月にICAO Annex 16, Volume III (Aeroplane

CO₂Emissions) が新たに発効されたが、Annex Volume IIに係るnvPM (non-volatile PM) の規制を含め、これらAnnex及びETM (Environmental Technical Manual) の改訂について意見交換が行われた。超音速機に適用されるEmissionの規制など、CAEP/12に向けた課題が確認された。

(2) 騒音関連

CAEP/12までに策定する予定とされている超音速機に適用する規制について、引き続き意見交換された。

現在超音速機の開発を進めている米国のAERION社の機体 (AS2) ではGE社製エンジンの装備が決定し、更にAERION社はBoeing社との提携により、技術的な支援も受けられる見込みである。半世紀ぶりの超音速旅客機が現実のものとなりつつある。CAEP/11サイクルにて注力するとしていた機体レベルでの騒音と排出物を統合した評価を含め、CAEP/12に向けた課題について確認された。

(3) CO₂排出に関するGlobal Market Based Measure Technicalについて

昨年6月に開催された前回のSteering Meeting後の7月に、CORSIA (Carbon Offset and Reduction Scheme for International Aviation) に関連したAnnex 16, Volume IV (CORSIA) の初版を紹介したState LetterがICAOから発行され各国に展開されると同時に、ICAOのWeb Siteでも同日公開された。本Annexは発効日が昨年10月で、本年1月1日からの取り組み開始に先んじて公開された。

ICAOでは各国に対する啓発、教育に傾注しており、ICAO ACT-CORSIA (Assistance, Capacity Building for CARSIA) 取り組みの一環として、日本を含む15か国が協力国 (Donor

States) となりICAOと協力して他の100か国程の国々に対してCORSIA実施に向けた支援するBuddy Partnership制度を立ち上げた。また、Web Siteへの関連資料の掲示に加え、本年3月から4月にかけては、CO₂排出量の検証、報告に焦点を当てたSeminarが実施される。

自発的参加国の航空会社に対して2021年からCO₂排出量に応じたカーボンオフセットが課せられるが、CO₂排出量の削減に向けた代替燃料の効果算定に係る意見交換が行われた。

3. 所感

本会議は二週間の開催期間であったが、会議後には連日ICCAIAメンバーで打合せを行い翌日の会議に臨んだ。

CAEP/12が開催される2022年は、超音速機を開発中のAERIONは初飛行を翌年に控え、また、CORSIAもパイロットフェーズに入っている。超音速機に対する規制の策定、CORSIAにおけるカーボンオフセットに関連した代替燃料に係る承認などCAEP/12サイクルにおいても引き続き課題は多いと感じた。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部長 羽中田 実 技術部部長 佐々木 義治〕



この事業は、オートレースの補助を受けて実施したものです。
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>